

一 般 質 問 通 告 書

令和 7 年 11 月 7 日

議 会 議 長 様

議席番号 5 番

議員氏名 北 出 恵 造

質 問 事 項	質 問 要 旨	指 定 答 弁 者
1. タクシー補助 の 拡 充 を 早 急 に	現行の町内巡回バスの委託事業の契約期間は、あと4年と数か月を残しており、直ちにデマンド交通を導入するのは困難な状況のようである。しかしながら、高齢者や要介護者、障がい者、妊産婦、病人・けが人等のいわゆる「交通弱者」は、4年余りも待ってはられない。 そこで今回は、デマンド交通が実現するまで、当面の次善の策として、タクシー補助の拡充を早急に実施することを提案するものである。 参考事例として提示するのは、小川町方式のタクシー補助である。名称は「小川町デマンドタクシー」となっているが、実態は事前に利用者登録が必要なタクシー補助である。その概要は図・表資料にあるように、対象は16歳以上の全町民、乗車料金は距離に応じた500円・1,000円・1,500円までの段階制、乗りたいときに電話で呼んで、自宅のほか、町内に293か所ある乗降ポイントで乗り降りが可能、というシステムである。 以上を踏まえて伺う。 (1) 本施策を実施する場合の主たる担当課は。 (2) 年間のタクシー補助利用者数と町負担額をどのように試算するか。 (3) 町長に伺う。小川町方式のタクシー補助に対する見解や当町での来年度からの実施の見通しを明らかに。	町長 副町長 総合政策課長 住民協働課長 担当課長

11月 7日 午前・午後 5時10分 受理

質 問 事 項	質 問 要 旨	指 定 答 弁 者
2. 西小学校・高野台小学校の統廃合は見直しを	杉戸町立小中学校新校設立準備委員会が本年7月に発足した。新校開校まであと2年4か月。高野台小学校の改修計画も動き出した。なぜ統廃合なのか。今必要なのは、少人数学級でゆとりある教育である。 不登校の児童生徒が全国で急増し、学校を年間30日以上欠席して「不登校」とされた小中学生は過去最多の35万3,970人（前年度より7,488人増）にのぼる（令和7年10月29日公表、文部科学省「令和6年度児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査」）。 また、うつ病などの「心の病」で、2023年度に休職した公立学校の教員が前年度比580人増の7,119人にのぼり、過去最多となった（令和6年12月20日公表、文部科学省「令和5年度公立学校教職員の人事行政状況調査」）。 2025年度はやっと小学校の学級定数が全学年35人となったが、求められている30人学級には程遠く、義務教育である小中学校が厳しい状況に置かれている。 そこで以下伺う。 （1）令和4年6月に決定した杉戸町立小中学校再編計画の「4 学校再編を進めるうえでの基本的な考え方」と今回の統廃合方針の整合性は取れているのか。 （2）令和3年12月12日及び19日に開催した意見交換会の参加状況は。 （3）学級規模と学習効果との関係をどのように捉えているか。 （4）学級数と教員数について、統合した時の将来推計と統合しない場合との比較について、1学級当たりの生徒数は増え、教員数は減ってしまうということか。 （5）今回の計画どおり統廃合した場合、高野台小学校の改修費を明らかに（概算で）。 また、仮に西小学校を改修する場合、改修費を明らかに（概算で）。 （6）統廃合のデメリットはないのか。	町長 副町長 教育長 教育総務課長 学校教育課長 総合政策課長 建築課長 担当課長